

出版企画・図版掲載願書

出版企画書	提出者 関根淳 (SOLONGO 企画)
書名	『オールカラー 地図と写真で見える！ 京の都 (仮)』(仮)
判形 A5 判	ページ数 192 ページ 定価 1000 円 (予価)
発行予定日	2017 年 9 月上旬
発行予定部数	7000 部
出版元	株式会社 西東社 (http://www.seitoshaco.jp/) 担当 原俊太郎 TEL 03-5800-3123
執筆協力	川端洋之
編集担当	関根淳
2012 年刊行の『地図と写真から見える！ 京の都 歴史を愉しむ！』を判型を大きく、オールカラーに変更（内容の変更なし）して再販することを目的としています。 本書の内容は、古地図や現代地図を組み合わせ、さまざまな事件や歴史の舞台となった京都を紹介する書籍です。今回のリニューアルにあたり、画像の再度の貸し出しおよび、弊社でデータ保存してあるものはそのまま再利用などの手続きについて、ご相談差し上げたく、ご連絡差し上げました。（下記は 2012 年度版の表紙です）	
 ISBN978-4-7916-1972-6 C2021 ¥1200E 定価: 本体1200円+税 ● 西東社 1922021012000 地図から京の歴史を見る! 1 京の今と昔がわかる 40cm×50cm超の 巨大マップ付き! 2 京都の歴史を約100枚の 現代地図や古地図で紹介! 3 充実した地図で約200の 「現在の京都」へも行ける!	

SOLONGO 企画 編集部
関根淳

〒177-0053 東京都練馬区関町南 4-14-32-401

TEL 03-6904-7041

090-6021-6790

Mail coach@tg7.so-net.ne.jp

祇園祭

「八坂神社」



↑八坂神社本殿は、本殿と拝殿の2つの建物を覆ったもので祇園造と呼ばれ、重要文化財指定。

→八坂神社の正門は南楼門だが、一番目立つのは四条通に面している西楼門だ。

西楼門



「洛中洛外図屏風 上杉本」に描かれた祇園祭。

米沢市上杉博物館蔵



所在地 ● 東山区祇園町北側625
アクセス ● 京阪電鉄京阪本線「祇園四条駅」から徒歩5分

祇園祭の主な行事 ①

7月10～14日

鉾建・山建

―各山鉾町―

山鉾が組み立てられる。釘を使わずにわら縄だけで固定する「縄がらみ」と呼ばれる伝統技法で組み立てられる。

7月13日

長刀鉾稚児社参

―八坂神社―

長刀鉾の稚児が、立烏帽子水干姿で八坂神社に詣る。「お位もらい」ともいう。

7月14～16日

宵山

―各山鉾町―

各山鉾に駒形提灯がいくつも点灯され、祇園囃子の笛や鉦、太鼓が奏でられる。旧家では屏風や工芸品などを飾る屏風祭が催され、各山鉾町の会所では、貴重なご神体や懸装品が展示される。

P172へ続く



宵山



長刀鉾稚児社参



祇園祭の粽は食べるものではなく、家内安全厄除けのご利益があり、玄関などに飾られる。

「祇園さん」と親しまれている八坂神社は、平安京遷都以前から素戔鳴尊を祀っていたと伝える古社である。

社伝によると、貞観11（869）年6月に都に疫病が流行。天変地異も起こったことから、祇園社（八坂神社）から神泉苑（↓P53）へ矛66本を建てて神輿を送った。この「祇園御霊会」といわれた疫病除けの神事が祇園祭の始まり。

悪疫神を依りつかせた山鉾は、しだいに飾りつけられるようになり、いまや動く美術館ともいわれるほどの華やかさである。山鉾は巡行の1週間ほど前から各山鉾町の道路で組み立てられる。巡行の前夜は宵山といい、飾りつけが終わった山鉾に駒形提灯が灯る。

祇園祭の主な行事 ②

7月17日

山鉾巡行
やまぼこしゅんこう

神輿渡御
みこしとぎよ

八坂神社石段下、四条御旅所

夕方、3基の神輿の差し上げ、差し回しが行われる。巡行後、四条寺町の御旅所へ。

7月24日

花傘巡行
はながさじゅんこう

石段下、市役所、八坂神社

子ども神輿や神饌花車、宮川町と祇園甲部の芸舞妓を乗せた花傘車などが通りを練る。

還幸祭
かんこうさい

四条御旅所、八坂神社

3基の神輿が四条の御旅所を出て、氏子町内をまわり八坂神社へ還る。

7月31日

疫神社夏越祭
えきじんじやなごしのまつり

八坂神社内疫神社

参拝者が大茅輪をくぐり無病息災を祈願。



還幸祭



花傘巡行

7月1日、ひと月におよぶ多彩な神事や祭事が幕を開ける。なかでも一番の見どころは、17日の山鉾巡行である。

「山」や「鉾」は町ごとに建てられる。「鉾」とは山車の屋根の上に、ビルの4、5階にまで達する高い柱が立ったもの。「山」は屋根やご神体の後ろに松があり、曳き手がいるものと神輿のように担ぐものがある。山も鉾も、それぞれにご神体がついている。

山鉾は室町時代の応仁の乱前には60基を数え、安土桃山時代に貿易が盛んになると南蛮渡来の絨毯などが飾られるようになり、より豪華となった。

幕末の禁門の変(↓P34)で焼失した山鉾もあったが、町衆の力で連綿と続けられてきた。昭和20(1945)年の敗戦時にも29基の山鉾が残り、現在、鉾が8基、傘鉾が2基、山が23基、合計33基の山鉾が受け継がれている。



南観音山

山鉾建の位置と巡行MAP

毎年7月17日

山鉾は7月10日から順次各町内で組み立てられ(山鉾建という)、宵山では提灯が飾られる。■緑(鉾)と■ピンク(山)の図は、各山鉾が立てられる位置を表す。巡行は、それぞれの場所から四条烏丸に移動して出発する。

河原町御池での辻廻し。

辻廻しが行われる。



17日午前9時、「エンヤラー」のかけ声で長刀鉾を先頭に、各山鉾が四条通を東へ進む。四条堺町で、山鉾のくじを確認する「くじ改め」が、四条麩屋町で、長刀鉾の稚児が俗界と神域の境界とされる注連縄を切る「注連縄切り」が行われる。それぞれの交差点での方向転換「辻廻し」が最大の見せ場。巡行後、山鉾はすぐに解体される。集めた疫病神を四散させないようにするためだという。

*時間は先頭通過予定時間。

巡行の通過所要時間は約2時間。